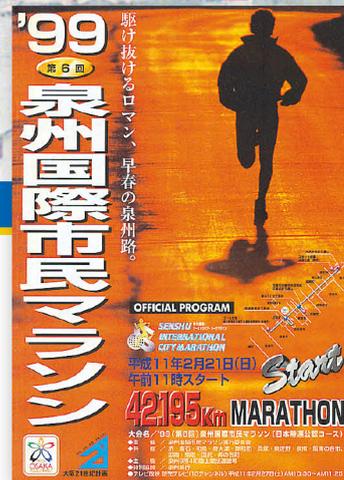


泉州国際市民マラソン 第6回大会 1999年(平成11年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 6th CONVENTIONS



2月21日

天 候: 快晴
気 温: 8℃
参加者数: 2,992人
完走者数: 2,369人
沿道人数: 54万人

国内の市民マラソンは、ハーフマラソンを含めると80大会以上を数えるが、各地の主だった市民マラソン優勝者に出場制限を適用せず、抽選なしで招待した。昨年から行われたこの制度は「キングオブ・シティーマラソン」と呼称した市民マラソンのオールスター大会を意味するものである。

また、当初から各市町の姉妹都市より招待されたランナーが健脚を競うことも国際交流の一助をなす大切な取り組みである。

今回の招待選手は、中山竹通やウラジミール・コトフ（ベラルーシ）らで、女子には谷川真理、真木和など有名選手の話が豊富であった。

レース展開は、気温が低く時折寒風が吹き付ける中、大阪府警勢とウラジミール・コトフらが集団を形成していたが、34km付近でコトフが抜け出し、一気にフィニッシュに飛び込んだ。女子は谷川真理（良品計画）が、実力通り貫録の優勝、期待された真木和は身体不調で出場を断念した。オリンピック以後の彼女の走る姿を見られなかったことは残念なことであった。

大阪府警の第1機動隊の得能正廣は一般の部で優勝、2位から4位までを大阪府警勢が占め、機動隊パワーを見せつけた。毎回参加の71歳の山田敬蔵は、250回目のフルマラソン完走を果たし、“シンガーソング・ランナー”高石ともやは、終始沿道の声援にこたえ人気を博した。また、全盲の向地憲志は伴走の門雅和、松崎弘行とともに3時間11分37秒で完走、54万人の沿道の声援を受け注目を集めた。なお、この年より当マラソン大会を第6回大会と呼称することになった。

スタート地点に集まる参加選手たち



選手を元気づけただんじりばやし（岸和田市本町で）

沿道から選手を応援する人たち（高石市内で）



